

共同礼拝

2024年8月11日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 市橋佳子

前 奏

招 詞 詩 編 90編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 8章9～15節 (旧1072)

マタイによる福音書24章1～14節(新47)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 54

説 教 「耐え忍ぶ時」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 291

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現をたゆむことなく祈り続けることができるように。

暴力、虐待、搾取、差別を乗り越えるための道を求め、実現への知恵がもたらされるように。

全ての者が平和こそ人の道であることに目を向けることができるように。

戦火や災害に弱る人々が力づけられるように。

今日の祈り

敗戦の日を覚え、戦争の残忍さ悲劇と罪と愚かさを忘れることのないように。暴力や戦争を頼り利用しようとする思いが砕かれるように。

世界の指導者の思いが平和へと向けられ、戦闘と紛争が一刻も早く止み、生活が回復されるように。

体調を崩し、治療を受けている兄弟姉妹が支えられるように。

「耐え忍ぶ時」 高橋和人

マタイによる福音書24章1～14節

主イエスは神殿での話の最期を嘆きの言葉で締めくくり、神殿を出られる時には神殿を指さしてその崩壊を預言された。

オリーブ山でも主は座って弟子たちを集められた。弟子たちは、神殿の崩壊の時期と再臨の時、終わりの時のしるしを尋ねる。主は何時かについては語られない。

主は「人に惑わされないこと」と告げる。多くのメシアの登場、戦争の騒ぎ、飢饉と地震は今を思わせる。それは産みの苦しみの始まりと言われる。

そして、主は弟子たちに向けて、「そのとき」の様子を語られる。苦しみを受けて殺され、主の名の

ゆえに憎まれ、つまずき…苦しみの到来を言われる。主は弟子たちへの受難の時を告げられる。これは、一時的なことではない。教会はいつもこの時を意識していなければならない。

主は「不法がはびこり」「多くの人の愛が冷える」と言われる。不法は律法をなくすること。「神である主を愛しなさい」「隣人を自分のように愛しなさい」

(22:38, 39) という愛が失われる。人心が荒廃するばかりでなく、神とのつながりが失われ殺伐として冷たい世界となる。

主は「しかし、最後まで耐え忍ぶものは救われる」と言われる。主の教えられた教会の姿がここにある。パウロは「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」(ローマ5:4, 5)と忍耐は希望を生むと教える。神の愛が注がれているからだ。さらに「それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。」(15:4)と告げる。忍耐の時に必要なのは聖書から学ぶことだ。聖書は神と人とを愛によって結んできた言葉だ。聖書以外にこれを示すものはない。

耐え忍ぶことによって、御国の福音が全世界に宣べ伝えられる。耐え忍ぶ時にこそ、教会は主に愛され支えられていることを表すことができる。それは聖書、忍耐、慰め、希望という教会の道になる。

「終わり」は完成という言葉。それは神の御心の完成となる。言葉によって世界を創られた神の御心が主イエスの再臨によって完成される。教会はいつもこの慰め、この希望に導かれている。